

第11回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成27年10月21日（水） 15：00 - 16：50

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、鎌田部会長代理、松井部会長代理、青木委員、下村委員、白地委員、中須賀委員、中村委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、松井宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、高見宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 部品に関する技術戦略の策定等について

資料1「部品及びコンポーネントに関する総合的な技術戦略の検討状況について」に基づき経済産業省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（ : 質問・意見等 : 回答）

宇宙用部品産業からの撤退を検討しているメーカーもあると聞いており、宇宙部品産業の魅力を高めていく必要がある。技術戦略を検討している研究会では、その観点からも議論を行っているのか。

昨年度の研究会で戦略の骨子案を取りまとめた際に同様の指摘があったため、国産化には事業として成り立つことが不可欠であるということに留意しつつ議論を行っている。

技術戦略を検討するにあたって、安全保障の観点は重要である。キーとなる部品、コンポーネントについては自立性を確保できるようにすべき。

宇宙用部品は厳しい認定試験を経て部品を選別をしていく方式を採っている。一方、自動車用部品は品質の高い部品を作り込んでいく方式を採っている。自動車用部品の方が品質が上回るものも想定されるので、よく両者を比較して、自動車用部品の方が品質が上回っているものがあれば使う方向で考えてはどうか。

宇宙用部品産業の魅力を高めて、新規に参入する企業を増加させるために、これから宇宙システム海外展開タスクフォース等の活動を通じて宇宙インフラを輸出し、海外需要を獲得していこうとしていることをアピールするべき。

自動車用部品メーカー側から考えると、宇宙用の部品は市場が小さく、また投資をする必要がある等参入にはリスクがある。逆に、自動車用部品を採用する宇宙用システムメーカーの品質保証の担当の側から考えると、どのように品質を担保するのかという問題がある。そこをクリアする必要があるので、それを念頭に置いて議論を進めるべき。

技術戦略を検討するにあたって、小型・超小型衛星はどのように位置付けられているのか。

政府が整備する人工衛星に必要な部品・コンポーネントの基盤を維持・強化するという観点からスタートしているため、小型・超小型衛星についてはメインではない。ただ、小型・超小型衛星分野は現在拡大している分野であるので、今後考えて参りたい。

自立性の確保は宇宙活動の全てにおいて確保出来るものではない。自立性を確保すべきプライオリティを考えるべき。

(2) 宇宙科学・探査について

資料2「第3回宇宙科学・探査小委員会 議事要旨」に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(: 質問・意見等 : 回答)

宇宙科学・探査の工程表の中の「多様な小規模プロジェクトの着実な実行」の取組としては、「海外大型計画への国際協力参画」に集中し、小型・超小型衛星や、大気球等の従来この中に含まれていた取組は中止するのか。

「戦略的中型」、「公募型小型」に加えて、「多様な小規模プロジェクトの着実な実行」も宇宙科学・探査の一つの柱であることをアピールするためにその例として「海外大型計画への国際協力参加」を打ち出しているものであり、他の取組を中止するわけではない。

(3) 宇宙産業・科学技術基盤に関する工程表の改訂について

参考資料2から5に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見等があった。(: 質問・意見等 : 回答)

国内の人的基盤の総合的強化は重要である。ただ、人材育成は難しい分野であるので関係者で検討を深めてほしい。

宇宙基本計画の工程表を改訂する意義は何か。

宇宙基本計画の工程表を宇宙開発戦略本部で改訂を決定することにより、宇宙基本計画の実施に向けて求心力を高めることが目的である。

以 上